

室蘭開発建設部の道路行政マネジメント



平成18年度達成度報告書 と 平成19年度の業績計画書 OUTCOME REPORT & PLAN

道路行政の取組み

現在、道路行政は、市民や道路利用者の視点に立ち、効率的かつ透明性の高い運営を求められています。

そのため、道路事業の成果について、数値の指標を用いて、目的・目標を明確にしつつ、事業を推進・評価する成果志向の道路行政マネジメントを導入しています。

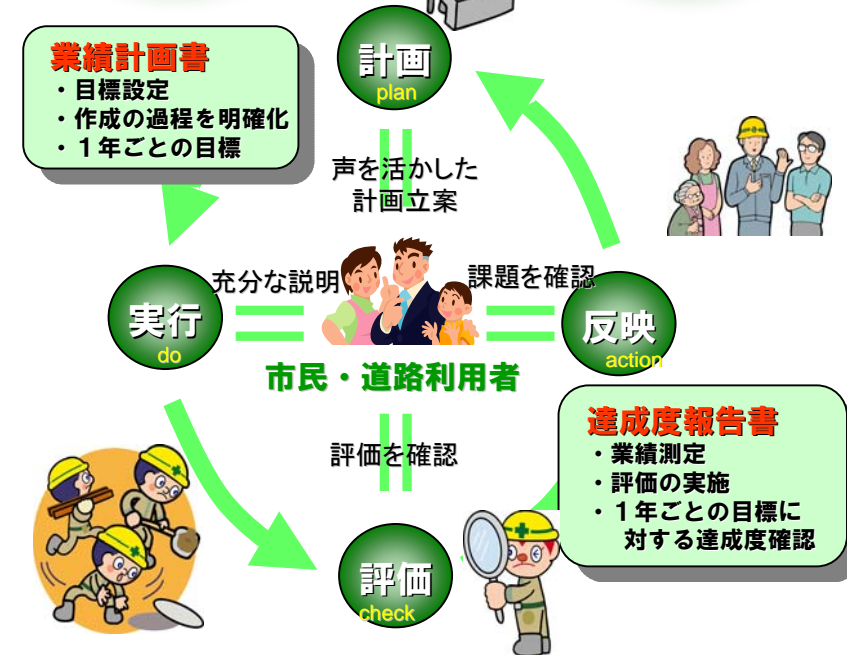
道路行政マネジメントの進め方

道路行政マネジメントの進め方として、目標達成に向けて「計画」した施策を「実行」し、その達成状況を「評価」した「達成度報告書」を作成します。

また、その結果を「反映」させた次年度の「計画」となる「業績計画書」も作成し、「達成度報告書」と共に公表するというサイクルを1年ごとに進めています。

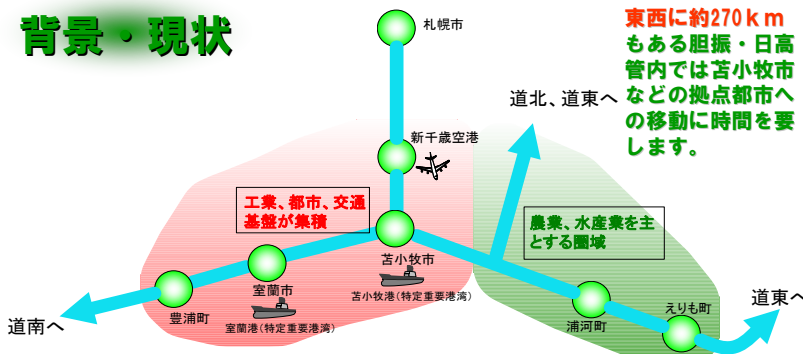
行政の透明性の向上

行政の効率性の向上



室蘭開発建設部が目指すみちづくり

背景・現状



東西に約270 kmもある胆振・日高管内では苫小牧市などの拠点都市への移動に時間を要します。

課題解決の視点

室建の方針

広域分散

圏域を効率的に結ぶ高規格幹線道路ネットワークの整備

高規格幹線道路網の整備

【規格の高い道路に関する取組み】

道路をツールとした地域活動、まちづくりの活性化

円滑なモビリティの確保

【渋滞に関する取組み】

災害

災害に強い道づくり

安全・安心な交通の確保

【防災に関する取組み】
【交通安全に関する取組み】

物流

北海道の活力を支える物流・観光拠点へのアクセス強化

事故・渋滞

安全で確実な信頼性の高い道路を目指す道路管理の充実

地域との協働コミュニケーションの向上

注：[]の目標は、道央圏(室蘭開建、札幌開建、小樽開建)としての共通の方針です。

高齢化



高齢人口の割合は北海道の平均を上回っています。

防災



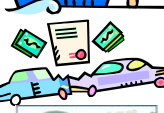
土砂崩れや落石による通行止が多い条件にあります。

物流拠点



特定重要港湾の苫小牧港と室蘭港があります。

郊外型の死傷事故



郊外型の死傷事故が多く、冬季の交通安全も必要です。

渋滞



都市部では渋滞が問題となっています。

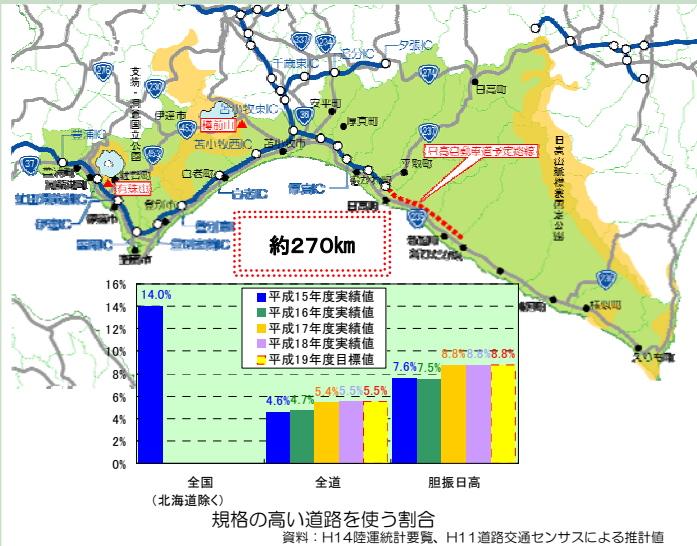
REGION：胆振・日高のH18達成度報告／H19業績計画

北海道の産業を支える胆振・日高

胆振・日高の現状と課題

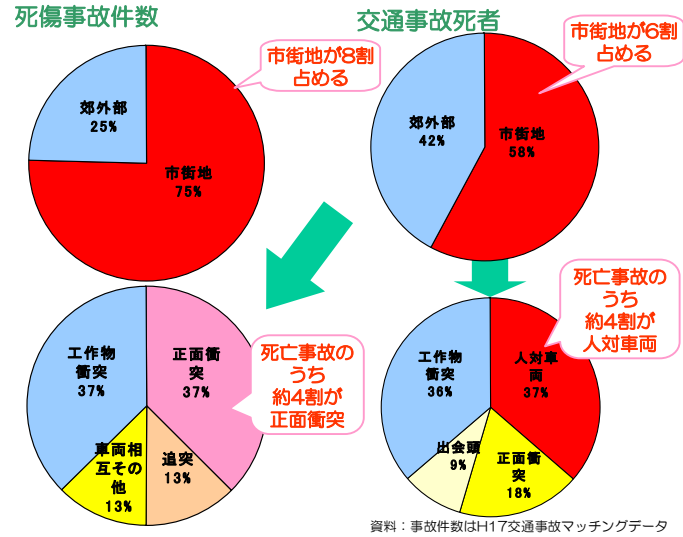
東西に長い地域構造

胆振・日高管内は、延長約270km（管内面積は千葉県と埼玉県を合わせた面積に匹敵）の中、規格の高い道路を使う割合は、8.8%となっており、全国の14%より低くなっています。



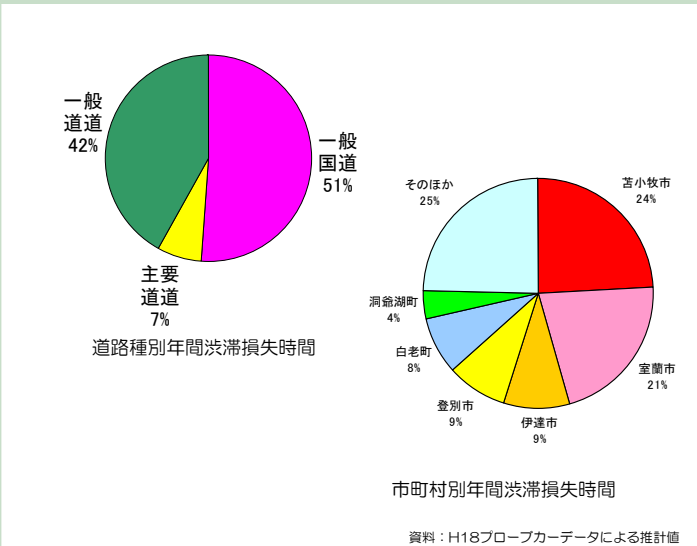
市街地で多い死傷事故、交通死亡事故

交通事故の約8割、死亡事故の約6割が市街地で発生しており、死亡事故のうち、郊外では正面衝突が約4割、市街地では人対車両が約4割を占めています。



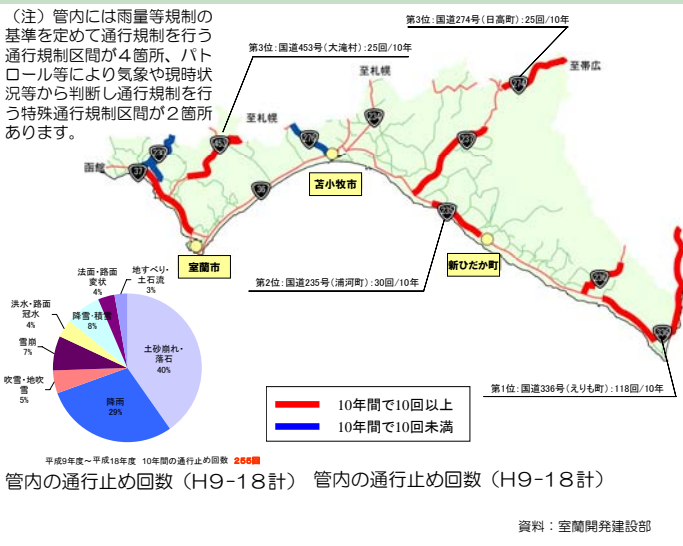
都市部で発生する渋滞

管内の渋滞損失時間は、全体の渋滞損失時間のうち5割が国道で占められており、室蘭市や苫小牧市をはじめとする都市部で過半数が占められています。



多発する自然災害による通行止め

管内は、有珠山等の火山噴火、越波、地震等の自然災害が多く、胆振・日高にある11路線実延長約681kmのうち、通行規制区間は6箇所約42.4kmとなっており、通行止めが多発しています。



平成18年度の成果と平成19年度の成果目標

| 指標名 | H17実績 | H18目標 | H18実績 | H19目標 | H19主な取り組み事例 |
|--------------------------|------------|------------|------------|------------|--|
| 規格の高い道路を使う割合 | 8.8% | 8.8% | 8.8% | 8.8% | ・道央自動車道虻田洞爺湖IC移転 ・日高自動車道門別厚賀道路の整備推進 |
| H16モニタリング区間における道路渋滞の損失時間 | 80万人時間/年 | 渋滞損失時間の削減 | 92万人時間/年 | 渋滞損失時間の削減 | ・一般国道36号登別拡幅の整備推進 |
| 死傷事故率 | 46.7件/億台キロ | 死傷事故率の減少 | 43.8件/億台キロ | 死傷事故率の減少 | ・一般国道336様似拡幅の供用 ・一般国道235号堺町拡幅に着手 |
| 交通事故死者率 | 0.71人/億台キロ | 交通事故死者率の減少 | 0.66件/億台キロ | 交通事故死者率の減少 | ・一般国道234号等でランブルストリップ等の整備 |
| 通行規制区間の箇所数（特殊通行規制区間を除く） | 4箇所 | 4箇所 | 4箇所 | 4箇所 | ・一般国道336号襟広防災（宇遠別トンネル延伸） |

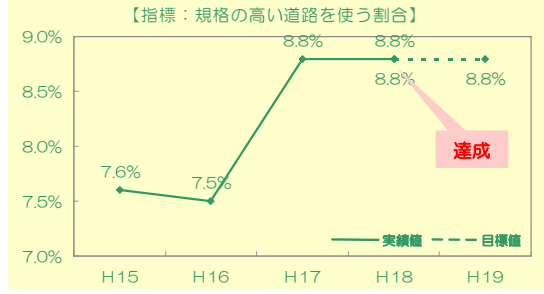
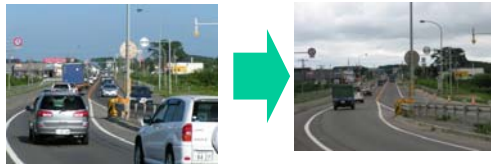
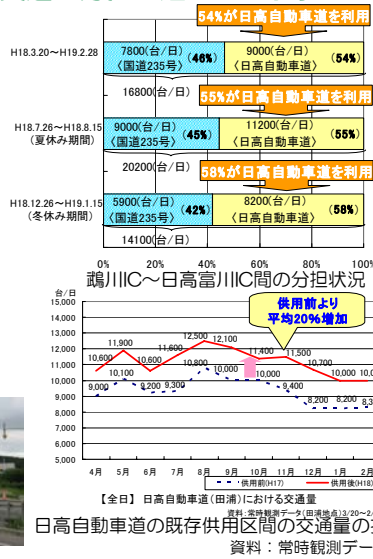
3. 開発建設部毎の取り組み（I. 胆振・日高）

『規格の高い道路』に関する取り組み

平成18年度の実績

日高自動車道の日高富川ICが供用され交通の分担が進んでいます

平成18年3月19日に日高富川ICが供用され、新しく供用された鶴川IC～日高富川IC間では、並行区間である国道235号と合わせた交通量の内の54%が日高自動車道を利用しており、交通の分担が進んでいます、また、鶴川ICまでの既供用区間における日高自動車道の交通量も20%増加し、交通の転換が図れており、その結果大型連休時に発生していた鶴川市街地周辺の渋滞も解消されています。

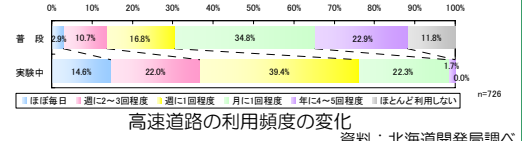


平成18年度の主な取り組み

- ・日高自動車道門別厚賀道路、厚賀静内道路(事業継続中)
- ・道央自動車道社会実験

道央道社会実験により高速道路の利用が促進

道央自動車道の利用促進、現道課題の解決を目的に、千歳IC～登別室蘭IC間において、10月の1ヶ月間の料金を半減する社会実験を実施した結果、利用誘発を図ることができました。



平成19年度の取り組み

道央自動車道の虻田洞爺湖ICが移転します

平成12年3月31日の有珠山噴火により被災した国道230号が通行不能となっていたことから、洞爺湖温泉町から虻田洞爺湖ICのアクセスが大変不便となっており、これを解消するため、平成19年3月28日に国道230号新ルートが供用しました。平成19年12月21日には虻田洞爺湖ICの移設が予定されており、国道230号新ルートと接続され、利便性が向上します。

また、日高自動車道については、日高富川～静内までの区間について、引き続き整備を進めます。



『渋滞』に関する取り組み

平成18年度の実績

国道37号虻田市街区間を全線供用しました

国道37号虻田市街の区間は、道内有数の観光地である洞爺湖温泉を有する洞爺湖町の中心市街地において、歩道未整備箇所との交通混雑解消のため、拡幅事業を進め、平成19年3月に供用しました。

その結果、旅行速度の向上、安全な通学路の確保等、交通の円滑性、安全性が向上しました。



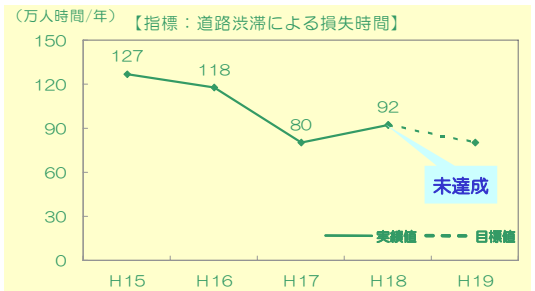
国道234号早来道路を全線供用しました

国道234号早来道路は、道北および空知地方と特定重要港湾苫小牧港や新千歳空港方面を結ぶ主要幹線道路として利用されています。早来道路では、渋滞区間において、平成6年度から整備が進められ、平成19年3月に供用しました。

平成19年度の取り組み

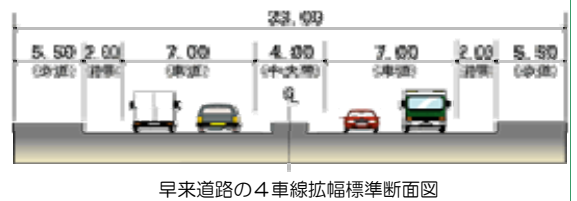
国道36号登別拡幅をはじめ渋滞対策を進めます

胆振・日高管内において渋滞区間の上位となっている国道36号白老町字虎杖浜～登別市本町区間において引き続き拡幅事業を実施していくほか、都市部での交差点改良などを進めます。



平成18年度の主な取り組み

- ・国道37号虻田市街(全線供用)
- ・国道234号早来道路(全線供用)
- ・国道36号登別拡幅(事業実施中)
- ・国道276号住吉交差点など



平成19年度の主な取り組み予定

- ・国道36号登別拡幅(事業実施中)
- ・国道235号富川交差点等の交差点改良など

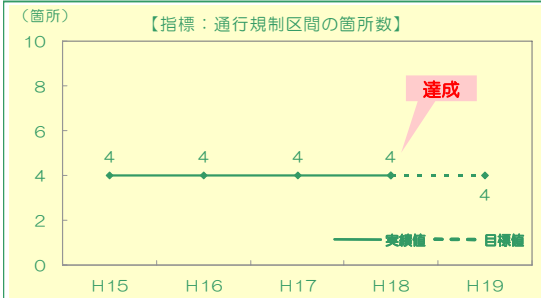
3. 開発建設部毎の取り組み（I. 胆振・日高）

『防災』に関する取り組み

平成18年度の実績

国道230号虻田インター関連の供用

平成12年の有珠山噴火により、道路区間内に噴火口や断層が発生するなど直接的な被害を受け、通行不能となっていました。国道230号虻田インター関連区間は、平成19年3月28日に供用しました。この国道230号復旧ルートは、有珠山防災マップにおける火砕サージ被害想定区域の外に整備しており、火山災害に強い幹線道路網を形成しました。



平成18年度の主な取り組み

- ・国道230号虻田インター関連供用
- ・国道336号襟広防災 宇遠別トンネル延伸着手（事業実施中）
- ・国道274号ウェンザル道路 新清見トンネルの着手（事業実施中）
- ・耐震補強対策 など

平成19年度の取り組み

国道336号襟広防災の継続

国道336号襟広防災宇遠別トンネル延伸、国道274号ウエンザル道路については、引き続き事業を実施します。

平成19年度の主な取り組み予定

- ・国道336号襟広防災（宇遠別トンネル延伸）
- ・国道274号ウエンザル道路（事業実施中）
- ・耐震補強対策 など

『交通安全』に関する取り組み

平成18年度の実績

事故危険箇所対策の実施

事故危険箇所対策として、国道274号の福山地区に中央帯を設置し、国道37号、235号、237号でランブルストリップスを整備しました。

ランブルストリップス



平成18年度の主な取り組み

- ・国道336号類似拡幅（事業実施中）
- ・国道274号福山中央帯設置（事業実施中）
- ・事故危険箇所対策の実施
- ・国道37、235、237号でのランブルストリップスの整備 など

平成19年度の取り組み

国道336号類似拡幅が供用

線形不良、幅員狭小及び歩道未整備箇所、防災点検による要対策箇所を有する国道336号類似拡幅を供用するほか、国道274号福山中央帯設置が完了します。

また、浦河町の市街地でありながら歩道未設置であった国道235号堺町地区で歩道を広げる等の安全対策に着手します。

平成19年度の主な取り組み

- ・国道336号類似拡幅の供用
- ・国道274号福山中央帯設置の完了
- ・国道235号堺町歩道整備着手
- ・事故危険箇所対策の実施
- ・ランブルストリップスの整備 など

『冬』に関する取り組み

平成18年度の実績

雪みちプロジェクトの推進

国道230号の折りたたみ式防雪柵の設置、冬季ボランティアサポートプログラムの推進等の雪みちプロジェクトを推進しました。

平成18年度の主な取り組み

- ・国道230号洞爺湖町の折りたたみ式防雪柵設置の実施
- ・冬季ボランティアサポートプログラムの推進

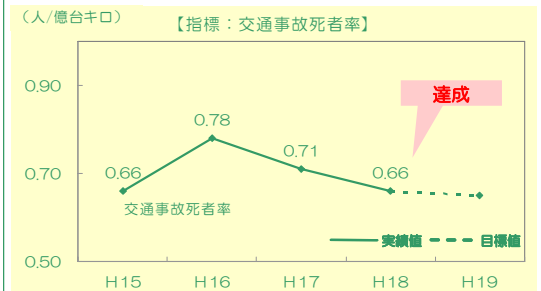
平成19年度の取り組み

景観に配慮した折りたたみ式防雪柵設置が完了

平成19年度に、地吹雪対策区間(6,000m)である国道230号の洞爺湖町の折りたたみ式防雪柵の設置が完了します。

平成19年度の主な取り組み予定

- ・国道230号洞爺湖町の折りたたみ式防雪柵設置の完成
- ・冬季ボランティアサポートプログラムの推進

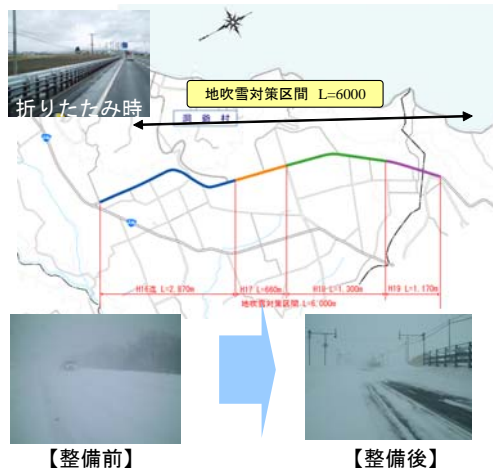


<国道336号類似拡幅>

【事業前】



<国道235号堺町の状況>



【整備前】

【整備後】

地域連携による新たな国道の愛称づくり『優駿浪漫街道』に決定

■観光振興のために地域を繋ぐ国道の愛称の必要性

胆振・日高管内では、国道274号の「石勝樹海ロード」、国道236号の「天馬街道」、国道336号の「黄金道路」と各国道区間に、愛称がつけられ定着しています。しかし、国道235号、236号の天馬街道入り口までは、軽種馬の名産地など、風光明媚な沿道景観があり、サラブレッドロード、日高路などと呼ばれることもありますが、統一された特定の愛称はなく、地域連携による観光PRなどにおいて、この区間の地域にふさわしい愛称等が必要でした。

■官民協働で愛称募集と選考を実施

平成18年7月に一般国道235号、236号の日高町門別競馬場前から浦河町天馬街道入り口までの国道約90キロについて愛称を募集しました。

公募の結果1,754点もの応募があり、事前選考などの手続きを経て、平成18年8月21日、日高管内7町、各種民間団体、室蘭開発建設部、日高支庁で構成された選定委員会で最終選考を行いました。

■愛称決定とPRの実施

最終選考を行った結果、以下のとおり愛称が決定しました。

選ばれた愛称

『優駿浪漫街道』(ゆうしゅんろまんかいどう)

PRポスターを作成し、管内の公共施設、観光・温泉、道の駅、レストラン、ガソリンスタンドなどに配布し、地域内でのPRを高めました。

■H19年度の取り組み(ロゴマークの公募とPRの継続)

PR活動の一環として『優駿浪漫街道』のロゴマークを公募により募集・選考するとともに、サイン施設への活用などによりPRの充実を図ります。

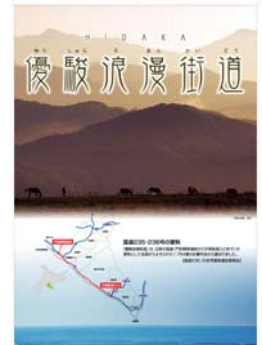


4町を繋ぐ国道235号『愛称の空白区間』

【優駿浪漫街道と周辺観光地】



【PRポスター】



■今年度の重点検討項目

昨年度の実施経緯をふまえ、洞爺湖エリア代表者会議等で洞爺湖エリアとしての今年度の重点検討項目を以下の4項目に設定しました。

<今年度の重点検討項目>

1. 洞爺湖エリア全体の検討体制・組織の構築
2. エリアガイドの育成
3. 景観推進プロジェクトの検討
4. 各種関係機関との連携体制の構築

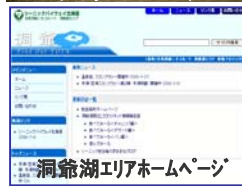
■洞爺湖エリア検討体制と取り組みの内容

平成18年度は、3つのテーマについて研究部会を構築しました。研究部会の中で活動内容の検討や実践をしました。

シーニックバイウェイ北海道支庁洞爺二セコルート

洞爺湖エリア代表者会議

- (仮称)景観・環境研究会 → 景観づくりの取り組み推進 → よごさんキャンペーン等
- (仮称)観光・体験研究会
- (仮称)情報・資源研究会 → 地域資源活用による情報提供 → HP、インフォメーションコーナー等



■H19年度の取り組み

洞爺湖エリアは北海道洞爺湖環境サミットが予定されているなど環境保護への啓発に相応しい地域です。このため、453キャンペーンにおける植樹によるカーボンオフセットの取り組みなどを実践します。

シーニックバイウェイ洞爺エリアの取り組み

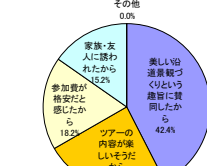


■火山が噴煙を上げる「洞爺湖エリア」

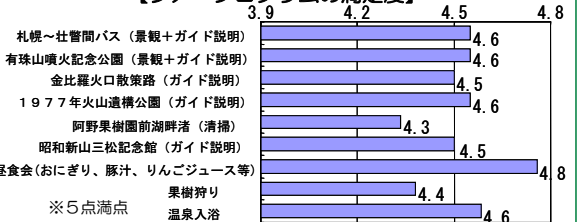
エリアのシンボルの一つ洞爺湖周辺では、湖畔沿道から印象的なシークエンス景観が楽しめます。有珠山、昭和洞爺湖もエリアのシンボル。散策路が整備され、火口を間近に見る事ができ、自然の神秘に触れます。温泉街からの活火山地帯特有の眺望など独特の景観を楽しめます。

<キャンペーンの評価>

【キャンペーン参加の主な理由】



【ツアープログラムの満足度】



資料：室蘭開発建設部